



設定の確認と保存

この章では、システム設定の保存方法について説明します。

- [設定の確認 \(1 ページ\)](#)
- [ファイルシステムの同期 \(3 ページ\)](#)
- [設定の保存 \(3 ページ\)](#)

設定の確認

いくつかのコマンドを使用して、機能、サービス、またはシステムの設定を確認できます。多くはその実装において階層型であり、構成ファイル内の一部または特定の行に固有のものもあります。

機能設定

多くの構成では、特定の機能を設定して確認する必要があります。例には、IP アドレスプールの設定が含まれています。次の例を使用して、リストされているコマンドを入力し、機能設定が適切であることを確認します。

IP アドレスプールの設定を表示するには、**show ip pool** コマンドを入力します。このコマンドの出力は、次に示すサンプルのようになります。この例では、すべての IP プールが *isp1* コンテキストで設定されています。

```
context : isp1:
+-----Type:          (P) - Public          (R) - Private
|                      (S) - Static          (E) - Resource
|
|+-----State:        (G) - Good             (D) - Pending Delete      (R)-Resizing
||
||+---Priority:        0..10 (Highest         (0) .. Lowest (10))
||||
||||+--Busout:        (B) - Busout configured
|||||
vvvvvvv Pool Name      Start Address  Mask/End Address  Used      Avail
-----
PG00    ipsec          12.12.12.0        255.255.255.0    0          254
PG00    pool1          10.10.0.0         255.255.0.0     0          65534
SG00    vpnpool        192.168.1.250    92.168.1.254    0          5
```

Total Pool Count: 5



重要 システムの機能を設定するには、これらの機能専用の **show** コマンドを使用します。詳細については、『*Command Line Interface Reference*』の「*Exec Mode show Commands*」の章を参照してください。

サービス設定

次のコマンドを入力して、サービスの作成と適切な設定がされていることを確認します。

```
show service_type service_name
```

出力は、次に示す例のように、サービスパラメータの設定を簡潔にリストしたものです。この例では、*pgw* という名前の P-GW サービスが設定されています。

```
Service name           : pgw1
Service-Id             : 1
Context                : test1
Status                 : STARTED
Restart Counter        : 8
EGTP Service           : egtp1
LMA Service            : Not defined
Session-Delete-Delay Timer : Enabled
Session-Delete-Delay timeout : 10000(msecs)
PLMN ID List           : MCC: 100, MNC: 99
Newcall Policy         : None
```

コンテキストの設定

show context name name コマンドを入力して、コンテキストが作成されており、正しく設定されていることを確認します。

出力にはアクティブなコンテキストが表示されます。ID は次に示す例と同様になります。この例では、*test1* というコンテキストが設定されています。

```
Context Name      ContextID      State
-----
test1             2             Active
```

システム設定

show configuration コマンドを入力して、設定ファイル全体が作成され、正しく設定されていることを確認します。

このコマンドは、上記で定義したコンテキストとサービス設定を含む設定全体を表示します。

設定エラーの検出

構成ファイルのエラーを特定するには、**show configuration errors** コマンドを入力します。

このコマンドは、設定内でされた検出されたエラーを表示します。たとえば、「service1」という名前のサービスを作成していて、設定の別の部分で「srv1」と入力すると、このエラーが表示されます。

設定の特定のセクションを指定するには、このコマンドを調整する必要があります。次の例に示すように、**section** キーワードを追加し、[help] メニューからセクションを選択します。

```
show configuration errors section ggsn-service
```

または

```
show configuration errors section aaa-config
```

設定にエラーが含まれていない場合は、次のような出力が表示されます。

```
#####
Displaying Global
AAA-configuration errors
#####
Total 0 error(s) in this section !
```

ファイルシステムの同期

アクティブ CF で構成または StarOS バージョンのブート順序が変更されるたびに、ファイルシステムをスタンバイ CF と同期する必要があります。これにより、管理カード間で変更が同一に維持されることが保証されます。

次の Exec モードコマンドを入力して、ローカルファイルシステムを同期します。

```
[local]host_name# filesystem synchronize all
```

filesystem コマンドは複数のキーワードをサポートしており、ファイルシステムの破損を確認および修復したり、ファイルシステムを特定のストレージデバイスと同期したりできます。詳細については、『*Command Line Interface Reference*』の「*Exec Mode Commands*」の章をご覧ください。

サービス機能カードのブートファイルの同期

すべてのサービス機能 (SF) VPC-DI 非管理カードのブートファイルを同期するには、次の CLI 実行可能コマンドを使用します。

```
[local]host_name# system synchronize boot
```

これにより、ブートファイルでの変更が SF カード間で同一に維持されることが保証されます。

mh14 未満のバージョンから mh14 以降にバージョンをアップグレードする場合は、リロードする前にこのコマンドを実行してください。

設定の保存

次の手順では、Exec モードのルートプロンプトが表示されていることを前提としています。

```
[local]host_name#
```

現在の設定を保存するには、次のコマンドを入力します。

```
save configuration url [ obsolete-encryption | showsecrets | verbose ]  
[ -redundant ] [ -noconfirm ]
```

url は、構成ファイルを保存する場所を指定します。ローカルファイルまたはリモートファイルを参照する場合があります。



重要

次の URL フィールド（ディレクトリ、ファイル名、ユーザー名、パスワード、ホスト、またはポート番号）に文字列を入力する場合は、「/」（スラッシュ）、「:」（コロン）、または「@」（アットマーク）の文字を使用しないでください。



重要

-redundant キーワードを指定すると、スタンバイ CF 仮想マシンに構成ファイルが保存されます。このコマンドは、ローカルファイルシステムを同期しません。アクティブな CF VM のローカルデバイスとの間で他のファイルやディレクトリを追加、変更、または削除した場合は、両方の CF VM でローカルファイルシステムを同期する必要があります。[ファイルシステムの同期（3 ページ）](#) を参照してください。



重要

obsolete-encryption キーワードおよび **showsecrets** キーワードは、StarOS 19.2 以降の **save configuration** コマンドから削除されました。削除されたキーワードを含むスクリプトまたは設定を実行すると、警告メッセージが生成されます。



（注）

このコマンドでは **usb1** キーワードオプションおよび **usb2** キーワードオプションを使用できますが、このオプションは、デバイスがハイパーバイザを介してサーバーに設定されている場合にのみ使用できます。これには、仮想コントローラの作成と使用可能なデバイスの指定が含まれます。

推奨手順は、VPC 設定を外部ネットワークデバイスに保存することです。

上記のコマンドの詳細については、『*Command Line Interface Reference*』の「*Exec Mode Commands*」の章を参照してください。

system.cfg という構成ファイルを、あらかじめ *cfgfiles* という名前で作成しておいたディレクトリに保存するには、次のコマンドを入力します。

```
save configuration /flash/cfgfiles/system.cfg
```

ユーザー名が *administrator* でパスワードが *secure* のアカウントがある IP アドレス *192.168.34.156* の FTP サーバーを使用して、*simple_ip.cfg* という構成ファイルを、*host_name_configs* というディレクトリに保存するには、次のコマンドを使用します。

```
save configuration  
sftp://administrator:secure@192.168.34.156/host_name_configs/  
simple_ip.cfg
```

ホスト名が *config_server* の TFTP サーバーのルートディレクトリに *init_config.cfg* という構成ファイルを保存するには、次のコマンドを入力します。

```
save configuration tftp://config_server/init_config.cfg
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。